

4歳児

もっと もっと 大きくなりたい

1 発達の特徴

- ・ 全身のバランスをとる能力が発達し、体の動きが巧みになる。
- ・ 自然や身近な環境に積極的に関わり、様々なものの特性を知り、それらとの関わり方や遊び方を体得していく。
- ・ 想像力が豊かになり、目的をもって行動し、作ったり、描いたり、書いたり、試したりするようになるが、自分の行動やその結果を予測して不安になるなどの葛藤も経験する。
- ・ 友達とのつながりが強くなる中で、けんかも増えてくる。その一方で、決まりの大切さに気付き、守ろうとするようになる。感情が豊かになり、身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちを抑えたり、我慢したりできるようになってくる。

【全身のバランス】

4歳を過ぎる頃から、しっかりとした足取りで歩くようになるとともに、全身のバランスをとる能力が発達し、片足跳びをしたり、スキップをしたりするなど、体の動きが巧みになってきます。活動的になり、全身を使いながら様々な遊具や遊びなどに挑戦して遊ぶなど運動量も増してきます。

手先も器用になり、紐を通したり結んだり、はさみを扱えるようになります。また、遊びながら声をかけるなど、異なる二つの行動を同時に行えるようにもなります。

【身近な環境への関わり】

子どもは、水、砂、土、草花、虫、樹木といった身近な自然環境に興味を示し、積極的に関わろうとします。砂山や泥ダンゴ作りに夢中になったり、花をつんだり木の実を拾ったり虫を捕ったりと自分の手足を使い、感覚を総動員して見たり触れたりしながら、ものや動植物の特性を知り、より豊かな関わり方や遊び方を体得していきます。また、認識力や色彩感覚などを育てていきます。

【想像力の広がり】

この時期の子どもは、想像力の広がりにより、現実体験したことと、絵本など想像の世界で見聞きしたことを重ね合わせたり、心が人だけではなく他の生き物や無生物にもあると信じたりします。その中で、イメージを膨らませ、物語を自分なりに創ったり、世界の不思議さや面白さを味わったりしながら遊びを発展させていきます。また、大きな音や暗がり、お化けや夢、一人取り残されることへの不安などの恐れを経験します。

【葛藤の経験】

自分と他人との区別ははっきり分かり、自我が形成されていくと、自分以外の人をじっくり見るようになり、同時に見られる自分に気付くといった自意識をもつようになります。自分の気持ちを通そうとする思いと、時には自分の思った通りにいかないという不安やつらさといった葛藤を経験します。

【自己主張と他者の受容】

子ども同士の遊びが豊かに展開していくと、子どもは友達といることの喜びや楽しさをより感じるようになり、友達とのつながりが深まっていきます。同時に、競争心も生まれけんかも多くなります。自己主張をぶつけ合い、悔しい思いを経験しながら相手の主張を受け入れたり、自分の主張を受け入れてもらったりする経験を積み重ねていきます。

自己を十分に発揮することと、他者と協調して生活していくという、人が生きていく上で大切なことをこの時期に学び始めるのです。

2 教育・保育の重点

- 身の回りのことなど自分の力でやろうとする意欲を育て、基本的な生活習慣が身に付くようにし、自立への自信がもてるようにする。
- 発達や特性を配慮した環境づくりをし、様々な遊びに自ら取り組み、体験を広げたり、目当てをもって関わったりできるようにする。
- 友達と一緒に遊ぶ楽しさが分かり、自分の思いを相手に安心して伝えたりクラスの友達の中でつながりを楽しんだりする。

3 親育ち・子育て支援 保護者へ発信しましょう・・・子育て支援と家庭の教育力向上に向けて

☆ **生き生きと個性豊かな姿を見せる4歳児。一人一人の子どものよさをたくさん見つけることの大切さや楽しさを伝えましょう。**

- ・ 好奇心もいっぱいでもっともっと大きくなりたい子どもたちです。
- ・ 自分でできるという自信をもてるようにし、自己を伸び伸びと発揮できるようにしましょう。そのためには、一人一人の個性やよさを大切にすることがとても重要です。

☆ **他の子どもと比べるのではなく、その子らしさを認めていくよう伝えましょう。**

- ・ 子どもが集団生活をするようになると、つい他の子どもと比べたくなります。その子らしさが認められる中でこそ、集団生活でも安心し、自信をもって行動できるようになり、意欲も高まります。
- ・ 他の子どもと比べるのではなく、一人一人の子どもができるようになったことや表現したこと、考えたことなどそのプロセスを大切に受け止め、認めていくようにします。

☆ **安全面の配慮について伝えましょう。**

- ・ 様々なものに興味や関心が広がってきており、時には危険と思われる行動を起こすこともあります。安全面への配慮を十分にしながら、子どもの挑戦や気付き・発見などを大切に受け止められるようにします。

☆ **生活習慣を身に付けられるような配慮の大切さを知らせましょう。**

- ・ 食事、睡眠、清潔などの生活習慣を身に付けることが、この時期は大切です。子ども自身が快さや必要性を感じて身に付くよう、園と家庭との連携を深めることが特に大切です。
- ・ 歯磨きや片付けなど細かなことも上手になってきます。子ども自身がやろうとしていることをしっかり受け止め、活動しやすい場づくりやできないところを手伝うなど、自信につながるような援助が大切です。
- ・ 言葉の発達が著しく質問も多くなるこの時期、子どもの話を丁寧に聞く、質問に真剣に答える、一緒に考える、また、物語や絵本を読み聞かせるなど、大人も共に楽しみながら継続することが子どもの心を豊かにします。

☆ **絵本を読んであげることの大切さを伝えましょう。**

- ・ そろそろ字が読める子どももいますが、絵本はやはり大人が読んであげることが大切です。拾い読みは、字を読むことに意識が集中し、内容が伝わり難いだけでなく、じっくりと読む余裕がありません。絵本は文章よりも絵が物語る部分が多いので楽しみが失われます。
- ・ この頃から知的好奇心が旺盛になり、いわゆる科学絵本や図鑑の類も興味の対象になります。そうした絵本は大人に読んでもらうよりも友達数人で頭を寄せ合い、各自の経験をもとに話し合っている姿が見られるようになるのです。子どもが集中して読めるよう見守りましょう。

4 発達に必要な経験の内容

健康

- 保育者や友達と一緒にイメージを広げたり戸外で体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。
- 遊びや生活に必要な準備や片付けなどのやり方が分かり進んで行く。
- 自分の健康に関心を持ち、うがい、手洗いや衣服の調節などを進んで行く。
- 食べ慣れないものや嫌いなものでも少しずつ食べようとする。
- 園生活の決まりや災害時の集団行動の仕方が分かり、約束を守って行動する。

保育者の関わりのポイント

- ★ 跳ぶ、走る、登る、這う、投げる、スキップや踊るなど、様々な動きを楽しめるよう遊具や用具、音楽などの環境や雰囲気づくりを工夫する。
- ★ 一人一人の興味や関心、イメージなどが豊かになってくる。戸外での遊びも運動遊びだけでなく、遊びの拠点となる遊具や用具を工夫し、イメージを実現できるようにする。
- ★ 園生活に必要なルールや基本的な生活習慣について、子ども自身が必要性を感じながら身に付けていけるようにする。
- ★ 自分たちで栽培した野菜を調理して食べたり、食事の場所を工夫したりすることをきっかけに、食べたことのない食材や嫌いな食べ物などに興味をもって食べられるように、一人一人に寄り添いながら援助する。

人間関係

- 保育者や友達がしていることに興味や関心を持ち、自分の遊びに取り入れたり、一緒に遊んだりして楽しむ。
- 周囲の友達に親しみを感じ、自分の思いを伝えながら、相手の気持ちを感じとる。
- クラスのみんなで活動する楽しさが分かり、友達とのつながりを感じながら自分の力を発揮する。
- みんなと一緒に遊ぶ中で遊びのルールや流れが分かり、意識したり、守ったりして遊ぶ。
- 共同の遊具を大切に扱い、譲り合って使おうとする。
- 年下の子どもの親しみをもったり、年上の子どもの様子に関心を持ち、積極的に関わっていかうしたりする。
- 地域の方や高齢者との触れ合いを通して、様々な人に関心をもつようになる。

保育者の関わりのポイント

- 友達との関わりがもてる場を工夫し、保育者が仲立ちとなって友達との接し方や遊びへの参加の仕方などを援助し、友達と遊ぶ楽しさを十分味わえるようにする。
- 友達と一緒に遊ぶ中で、友達の思いに気付くようにしながら、みんなで楽しく遊ぶためのルールや決まりの必要性が分かるようにしていく。
- 異年齢の子どもの遊びが互いに見えるよう、保育者同士が連絡を取り合って遊びの場を設定し、子ども同士が互いに関心をもったり自然に交流したりできるようにする。その中で、5歳児に対しての憧れや3歳児に対しての思いやりの気持ちをもてるようにする。



クラスみんなで鬼ごっこ
鬼から逃げるスリルも楽しい

環 境

- 身近な自然に興味をもち、自分なりに考えたり試したりして遊びを楽しむ。
- 身近な道具の使い方がほぼ分かり、様々な場面で積極的に使おうとする。
- 重い、軽い、固い、柔らかい、伸びる、縮むなどのものの性質に気付き遊びに取り入れる。
- 身近な動植物に親しみ、見たり触ったり保育者と一緒に話をしたりする。
- 遊びに必要なものを自分なりに考えて作ったり、数や量に関心をもち、数えたり並べたり遊びに取り入れたりする。
- ものを大切に扱い、保育者と一緒に分類したり整理したりする。
- 生活や行事を通して、日本の国旗が分かり親しみをもつ。

保育者の関わりのポイント

- ▲ 花びらや落ち葉、木の実などを保育者も子どもと一緒に拾ったり集めたりし、遊びの中に取り入れ自然への関心がもてるようにする。
- ▲ 自然や人間の生活に変化があることに気付くよう、子どもの発見を見逃さずに受け止めたり共感したり、保育者自身が変化を敏感に感じとる。
- ▲ 自分で種を蒔いて植物を育てたり、小動物の世話をしたりすることで、自然の循環性を感じながら経験できるようにする。
- ▲ 子どもの好奇心を大切にし、遊びに没頭できる時間や場を保障する。また、様々な紙、布、木材、自然物など素材との出会いを豊かに積み重ねられるようにする。
- ▲ 日常生活の中で、人数や事物を数えたり、量を比べたり、様々な形に接する体験を豊かにし、数量や図形などに親しむことができるようにする。



絵の具で伸び伸びと絵を描く
筆や絵の具の使い方も身に付けてくる

言 葉

- 保育者の話を親しみをもって聞いたり、友達の話に耳を傾けたりする。
- 保育者の話や簡単な指示が分かる。
- 自分の言うことを聞いてくれる人がいることを知り、安心して伝えようとする。
- 「いれて」「かして」など遊びや生活に必要な言葉を使う。
- 保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、保育者や友達と言葉のやり取りを楽しんだりする。
- 体験したことや、絵本、歌などの中で面白い言葉に気付き、繰り返し声に出して楽しむ。
- 絵本や紙芝居などの内容や筋が分かり、ストーリーの展開を楽しみ、イメージを広げる。

保育者の関わりのポイント

- ◆ 温かい友達関係を育みながら、イメージを豊かに表して遊べるよう、保育者が仲間に入ってモデルとなり必要な言葉の使い方を知らせていく。
- ◆ 絵本や物語、詩、紙芝居などイメージを豊かに培えるものを日々の生活の中に取り入れ、言葉の美しさや楽しさに気付いていくようにする。
- ◆ 自分なりの言葉で表現している姿を認め、自信がもてるようにするとともに、相手に伝わった喜びを感じられるよう、子ども同士のやり取りの場面を大切に作る。
- ◆ 遊びの中で一人一人の思いを受け止め、トラブルが生じた時は互いの気持ちを代弁し、言葉で相手に分かるように伝えることの必要性に気付かせていく。

表 現

- 様々なものの音、色、形、手触り、動きなどに気付き、驚いたり感動したりする。
- 作ったものを使って遊んだり、保育者や友達と一緒に身の回りを美しく飾ることを楽しんだりする。
- 感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な素材や用具、方法などで自由に表現することを楽しみ、描いたり作ったりしたもので遊ぶ。
- リズムに合わせて動いたり、クラスの友達と気持ちを合わせて歌ったり、楽器を弾いたりすることを楽しむ。

保育者の関わりのポイント

- 一人一人のイメージを広げたり、膨らませたりできるような絵本、物語、歌などを、子どもの興味や遊びの状況に合わせて提示していく。
- 感動したことを表現したい、様々な役になりきりたいなどの思いを受け止め、お面や衣装、音楽などを子どもたちで使えるよう環境を工夫し、より活動を楽しめるようにする。
- 遊びに使えるものや年長児の遊びから刺激を受けたものなどを作れるように、製作コーナーなどの場を設け、子どもたちのその時の欲求にあった素材や材料を用意する。
- 作ったり、描いたりすることを十分楽しめるよう、見て意欲が湧くような材料を豊かに用意するとともに、表現する過程を大切にし、認めたり、共感したりする。

5 実践事例(16)

4歳児 5月

見て見て！ぼくたちの大きな大きな山を！

イメージを描きながら、思い切り身体を動かして遊ぶ

「お山つくろう」とX児が砂を盛り始める。そばにいたY児も「ぼくも」と一緒に砂をかき集めるようにして盛り始める。X児「そうだ」と言ってシャベルを2つ取り1つをY児に渡す。2人で砂を盛りながら手のひらで砂山を叩いたりシャベルでならしたりする。だんだん砂山が高くなる。X児は「これ富士山ね!!」と言うと「大きいので作ろう」と言いスコップを持ってくる。Y児もスコップで山をどんどん高くしたり斜面を固めたりしながら「山の上の方には雪があるんだ」「白砂をかけよう」「トンネルもあるよ」など自分のイメージを言葉に表し、トンネルをどこから掘り始めるか山を眺めたり、手で触れたりしながら「ここがいい」と決めると早速トンネル作りに夢中になる。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

- 友達と同じ動きをすることを楽しむ。
- 友達と遊ぶ楽しさを感じる。

- ◆言葉でやり取りする楽しさを感じる。
- ◆自分がイメージしたことや思ったことを言葉で表す。



- ★身支度、手足を洗う、着替えをする、汗を拭くなど自分でする。
- ★体を十分に動かす心地よさを感じる。
- ★分類して道具を片付ける。

- ▲風の心地よさを感じる。
- ▲大きいシャベル、ふるいなど、遊具や用具の扱い方を知る。
- ▲砂や水の量の変化による感触の違いを感じる。
- ▲砂山を作ったり穴を掘ったりして、砂の性質を知る。(崩れる、硬くなる、色が変わるなど)

- 自分のイメージや感じたこと、思ったことを砂や水を使って表現する喜びを感じる。

👉 保育者の関わりのポイント

☆ 子どもは友達と一緒に思い切り体を動かし、夢中になって遊ぶ体験を積み重ねていくことで、自分と違うイメージや考えをもっている友達の存在に気付いていく。思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを感じる経験を積み上げていく。

- ・ 保育者や友達がしていることに興味や関心もち、自分の遊びに取り入れたり、一緒に遊んだりして楽しめるようになってきたこの頃の4歳児。
- ・ 5月の心地よい季節、砂場で遊び始めたX児たち。自分なりの動きで思い思いに楽しんでいるうちに同じ場にいたY児と一緒に大きな山作りが始まった。
- ・ 3歳児から同じクラスの友達でさらに同じ大きなシャベルを持っていたことが山を作るきっかけになったようで、一緒に砂を盛りながら砂山のイメージがそれぞれに想起され、感じたことを素直に言葉にして伝え合っている。
- ・ 砂を積み上げて山を作ったり、崩れそうになると手やスコップで固めたりトンネルを作ったり、可塑性のある砂は次々に新たなイメージの想起や発想を引き出してくれる。

5 実践事例(17)

4歳児 10月

できたよできたよ！みんなのケーキ！

自分の思いや考えを動きや言葉で表しながら遊びを楽しむ

休み明けに公園やマンションの敷地で見つけたドングリを園に持ってくる子どもが数人。毎日少しずつドングリやマツボックリが増えてくる。散歩に行くと落ち葉や小枝を拾ったり集めたり、子どもたちは秋の自然を満喫。そこで、保育室に、カラスウリや八角、ツバキの実など様々な木の実や小枝などとともに小枝を薄くスライスしたものを用意しておく、早速子どもたちはスライスした小枝の上に思い思いの木の実や小枝をデザインし、自分なりにイメージしたのを作り始める。中でも本物のプチケーキのようにでき上がった作品は、ままごと遊びのデザートになったり、バースデーケーキに使われたりする。保育者が一人一人のミニケーキを載せておく大きなケーキの土台作りを提案すると「やったー」と大喜び。クラス全員のミニケーキを載せると、立派な大きなケーキができ上がった。そのうちケーキ屋の帽子やお金、エプロン、レジスターもでき、友達とイメージを共有しながらケーキ屋ごっこが始まる。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

- ▲いろいろな材料、用具の特長を活かし、組み合わせてイメージを表現する。
- ▲自然物の感触、匂いなどから季節感を感じる。

- ★保育者や友達と一緒にイメージを広げたり、体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。

- ◆言葉でやり取りをする楽しさを感じる。
- ◆自分の思いや考えを言葉や動きで表現する。
- ◆友達の言葉や動きを意識して受け止める。



- クラス全員で大きなケーキを表現。クラスの友達のつながりを感じる。
- 友達とイメージを共有して遊ぶ楽しさを感じる。

- 自分なりのイメージを表現し、友達に伝える喜びを感じる。
- 自然物の形や色、大きさや感触を生かして自分のイメージを表現する喜びを感じる。

👉 保育者の関わりのポイント

- ☆ 子どもたちは保育者や友達とイメージを共有して遊ぶ楽しさを感じることを通じて「クラスの一人」としての意識を高めていく。そうした経験ができるよう、保育者は子どもの育ちを踏まえながら、季節を意識した教材を準備したり楽しいアイデアを提供したりする。
 - ・ 重い、軽い、固い、柔らかい、伸びる、縮むなどのものの性質に気付き遊びに取り入れる姿が見られるようになってきた子どもたち。
 - ・ 家庭から持ってきた木の実や枯れ枝をきっかけに、身近な秋の自然物の感触や、匂い、形、色に関心を持ち、遊びに取り入れながら十分に関わって遊んでほしいと考えた。
 - ・ 八角やツバキの実、ススキの穂なども加えて保育室の片隅の机の上に分類し、目立つように集めておいたことで、「何だろう」「きれい」「いいにおいがする」などの関心につながった。
 - ・ さらに桜の枝を1センチ程の厚さにスライスしたものを置いたことでプチケーキのイメージが想起され、思い思いにデザインされたプチケーキが次々とでき上がった。
 - ・ 自然物を媒介に友達とイメージを共有したり、プチケーキを載せる大きなケーキ作りをするという、保育者のアイデアの提供により目的が明確になったりして、ケーキ屋ごっこやお家ごっこなど子どもたちの生き生きとした遊びが引き出された。

5 実践事例(18)

4歳児 3月

いよいよ、ぼくたちが年長組だよ！

年長組になる喜びや期待をもつ

まもなく年長組に進級の時を迎える4歳児。5歳児とお休み調べの引継ぎをする。2人ずつペアになって各クラスを回り「お休み、何人ですか？」と聞き、保育者に出欠席数をお休み調べの表に記入してもらい、「よろしくおねがいます」「ありがとう」など各保育室の保育者に声をかけられ、全クラスのお休み調べが終わったら職員室に報告に行く。職員室の保育者に報告をし、「ご苦労様」とねぎらいの言葉を得てホッとした表情を浮かべる。「ちゃんと言えたよ」「どきどきした」「おもしろかった」など保育室に帰ると担任に口々に報告する。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

- 5歳児との触れ合いに安心感をもったり憧れの気持ちを感じたりする。
- 他のクラスの子どもの出欠席の状況に興味をもち、気にかける。
- 5歳児の話すことや動きを意識して受け止め、共に行動し、最後までやり遂げた充実感を味わう。
- 人の役に立つ喜びを感じる。
- 5歳児に感謝の気持ちをもつ。



★担任に活動を終えた報告をし、最後までやり遂げる大切さを知る。

- ▲欠席者の名前や人数を、保育者が数字で表したり計算したりする様子を見て、文字や数に興味をもつ。
- ▲活動の内容を理解して行動する。

- ◆担任以外の保育者に関わり、言葉で説明し伝える喜びを感じる。
- ◆生活に必要なことを相手に伝えるように言葉で表現する。
- ◆いろいろな人と言葉でやり取りする楽しさを感じる。

👉 保育者の関わりのポイント

☆ 子どもたちが活動をやり遂げていく過程で、自らの成長を実感し自信につながる体験ができる。クラス担任以外の保育者を含めて園全体で一人一人の成長や思いを丁寧に受け止め、連携して関わっていく。

- ・ いよいよ年長組になる日が迫ってきた4歳児の子どもたち。
- ・ 5歳児から出欠席数を調べ、飼育物の世話、誕生会の進め方など、新年度の5歳児として引き継ぐことを具体的に教えてもらった。
- ・ さっそく張り切って出欠席数を調べに行く。各クラスへ行き担任の保育者に挨拶をし、用件を伝えなければならない。5歳児に教えてもらいながら緊張して取り組んでいる。
- ・ 大きく一步を踏み出せる節目の時であり、最後までやり遂げることで充実感を味わっている。
- ・ このような活動が年長児への修了を祝う気持ちや、お世話になった感謝の気持ちへとつながっていく。

6 必要な経験に向けての工夫及び教材・玩具など

自分の思いや考えを表しながら、友達との遊びを楽しめるように

- 一緒にいたいと思う友達や興味が同じ友達とごっこ遊びや簡単な表現遊びをする
- 遊びのイメージのヒントになったり、ストーリーを遊びの中で再現したりして楽しめる本：「おおかみと七ひきのこやぎ」「赤ずきん」「スイミー」「たんたのたんけん」など
- 言葉のやりとりを楽しんだり、友達と一緒に言葉遊びやわらべ歌遊びを楽しんだりする：「落ちた落ちた」「はないちもんめ」「あぶくたった」など
- 遊びのイメージを楽しんだり、友達と同じものを身に付けることで関わりを楽しんだりできるもの：ペープサート、お面、ベルト、剣やスティック作り（広告紙、新聞紙）など
- 思いついたものやイメージしたものを作る：小さい空き箱、牛乳パック、ペーパー芯など



小さな手形が
小鳥の羽に!!

友達とのつながりやみんなと一緒に体を動かす楽しさを感じられるように

- 簡単なルールのある遊び：かけっこ、しっぽとり、助け鬼、中あて、いすとりゲームなど
- リズム遊び・体操：「アブラハムの子」「ラウンドチェーン」「アイアイ」「チェッチェッコリ」バスごっこ、様々なリズム体操など
- フィンガーペイント、泥粘土、新聞紙遊び、凧作り、車輪を使って動くもの作り
- 自分の遊びの場を作ったり、遊びに取り入れて使えるものを作ったりする：大きめの段ボール箱、大小様々な空き箱、粘着テープなど

自分なりの目的をもって取り組めるように

- 新しいことをやってみたらできたという喜びを感じられるようにする：七夕飾り作りなど
- 気持ちよさや面白さを感じ、水に親しめるようにする：色水、シャボン玉、プール遊びなど
- 自分なりにやり遂げた満足感を感じられるようにする：かけっこ、運動会でのリズムなど
- 元気あふれる歌：「がんばりまんのうた」「どんないろがすき」「はしるのだいすき」など
- 紙を使って立体的にしていく楽しさを味わえるようにする：果物作り、動物作りなど
- 自分なりの目当てをもって動きだせるもの：ボール遊び、的あて、固定遊具での遊びなど
- 少し頑張ればできることに挑戦しようとする気持ちを育てられるようにする：縄跳び、こま回し、たこあげなど
- 自分の生活に置き換えられる本：「ティッチ」「きみなんかだいきらいさ」「ゆうたはともだち」「はじめてのおつかい」「いやいやえん」「ももいろのきりん」など

自然に触れ、様々な感動を得られるように

- 友達と一緒に見たり触れたりしながら親しみを感じられる生き物：アリ、ダンゴムシ、オタマジャクシ、メダカ、ザリガニ、カタツムリ、キンギョなど
- 保育者と一緒に水やりをしたり成長に気付いたりしていける栽培物：ミニトマト、アサガオ、ピーマン、ナス、キュウリ、スイカなど
- 遊びの材料になる草花や種：アサガオ、ムラサキツユクサ、ホウセンカなど
- 自然現象に興味関心をもつ：日差し、木陰の涼しさ、空の青さ、夏雲、雨、葉の色づき、霜柱など
- 季節を感じる歌：「あめふりくまのこ」「かえるのうた」「まっかな秋」「ゆげのあさ」「雪のペンキやさん」など
- 飼育の仕方や生態が分かりやすく書かれた図鑑：「しぜん」シリーズや「生き物の飼い方」の本など